

O-12-32

医療技術部職員を対象としたロジスティクス研修の取り組み

旭川赤十字病院 医療技術部 第一臨床工学課¹⁾、医療技術部²⁾、麻酔科³⁾

○陶山 真一¹⁾、佐藤あゆみ¹⁾、脇田 邦彦²⁾、小林 巖³⁾

【はじめに】災害対策本部運営では事務職員がロジスティクス業務を担っているが、有事においてはマンパワー不足のため十分に機能できないことが懸念される。そのため災害対策本部におけるロジスティクス業務を医療技術部職員がサポートすることにより、災害対策本部機能の充足が図れると考え、医療技術部職員を対象としたロジスティクス研修を開始したので報告する。

【研修目的】医療技術部職員を対象に災害時におけるロジスティクス業務の基本的知識の理解と必要なスキルの習得を目的とした。

【研修方法】災害ワーキンググループにて研修の企画運営をおこない、業務終了後1時間程度の研修とした。2018年度においては2回の研修開催し、第1回はロジスティクス業務の基本的知識の講義を実施、第2回は胆振東部地震における当院災害対策本部の記録を活用した時系列活動記録実習を行った。

【研修結果】第1回25名、第2回39名の医療技術部職員が受講した。アンケートではロジスティクス業務、時系列活動記録への理解が得られた結果となった。2108年度災害訓練では時系列活動記録実習を受講した医療技術部職員4名が本部の時系列活動記録を担当しロジスティクス業務のサポートをおこなった。

【考察】医療技術部職員は従来の災害訓練において自部門の業務対応や患者搬送を担当していたが、ロジスティクス研修を受講することで、本部および各エリアにおけるロジスティクス業務のサポートが可能となり、災害時におけるマンパワー不足解消に貢献できると考える。

【今後の課題】ロジスティクス研修を継続し、研修内容を充実させることで医療技術部職員の災害対応力を向上させ、災害に対応できる人材育成が今後の課題となる。

O-12-33

診療報酬改定による当院の高気圧酸素治療への影響

秋田赤十字病院 医療技術部

○兒玉 健太、松岡 厚志、大沢 元和

【目的】2018年4月に高気圧酸素治療(以下HBO)の診療報酬が大幅に改定され、採算面に対しての改善や治療件数の増加が期待される内容となった。今回、診療報酬改定による当院のHBOに与える影響について検討したので報告する。【方法】対象期間は診療報酬改定前の2017年4月から2018年3月までと改定後の2018年4月から2019年3月までとした。治療回数、算定額、症例数、依頼診療科の治療実績等について比較検討を行った。【結果】治療回数と症例数は、改定前が41症例515回(救急74回、非救急441回)に対し改定後が49症例453回であった。算定額は、改訂前が救急74回×5,000点=370,000点、非救急441回×200点=88,200点であり、合計458,200点であった。改定後は453回×3,000点=1,359,000点であった。依頼診療科数は7科と変わらなかったが、改定後に新たにHBOを実施した3つの診療科があった。【考察】診療報酬改定に伴い各診療科に対しHBOについて二度説明会を行った。治療回数は減少したが約3倍の大幅な増収となった。改定前に比べ症例数は、8症例増加した。増加した。今まで治療実績の少なかった診療科が増加し、特に形成外科においては改定を機に初めて高気圧酸素治療を導入した。今後は診療報酬改定により治療上限回数が規定されたことで長期治療で効果が期待される疾患への対応などが問題になると予想される。【まとめ】診療報酬改定による当院のHBOに与える影響について検討した。今後、様々な疾患に対するHBOの適応が予想されるため、より一層の安全に対する意識の向上が必要であると思われる。